

平成 24 年度 (2012 年度) セタシジミ産卵前肥満状況

石崎 大介・幡野 真隆

1. 目的

産卵期直前のセタシジミの肥満度（軟体部乾燥重量／満水全重量×100）は産卵量の指標であると考えられており、資源変動の重要な要素となっている可能性がある。そこで琵琶湖北湖一円の漁場においてセタシジミの肥満度を調査した。

2. 方法

2012年6月1日に琵琶湖北湖の主要7漁場（沖島南西・沖島東・沖島西・松原・磯・長浜・今西）を含む17漁場（菖蒲漁場は採捕なし）において、実際のシジミ漁業で用いられる貝桁網を用いてセタシジミを採捕した。調査は毎年同じ漁業者に依頼している。漁場ごとに殻長18mm以上の個体を無作為に12個体抽出し（採捕数が12未満の水域は全個体）、全重量を0.1mgの単位まで測定した後、軟体部を取り出して乾燥させ、軟体部の乾燥重量を0.1mgの単位まで測定し、肥満度を計算した。

3. 結果

全漁場の肥満度の平均は2.12%であり2010、2011年のそれぞれ3.84%、2.72%からさらに低下した（表1）。琵琶湖の西部や北部で低く、東岸で高い傾向は例年と同様であった。主要漁場の平均肥満度も2.18%とかなり低く（図1）、全ての漁場で著しく低下した。肥満度の低下による産卵量への影響が懸念され、今後の資源動向に注意が必要である。

漁場名	肥満度(%)
沖島南西	1.97
沖島東	2.00
沖島西	2.37
松原	2.43
磯	2.31
長浜	2.34
今西	1.81
菖蒲	-
牧	2.51
新海	2.40
石寺	2.10
八坂	3.06
海津	1.90
針江	1.36
鴨川	1.83
高島	1.99
近江舞子	1.58
平均	2.12

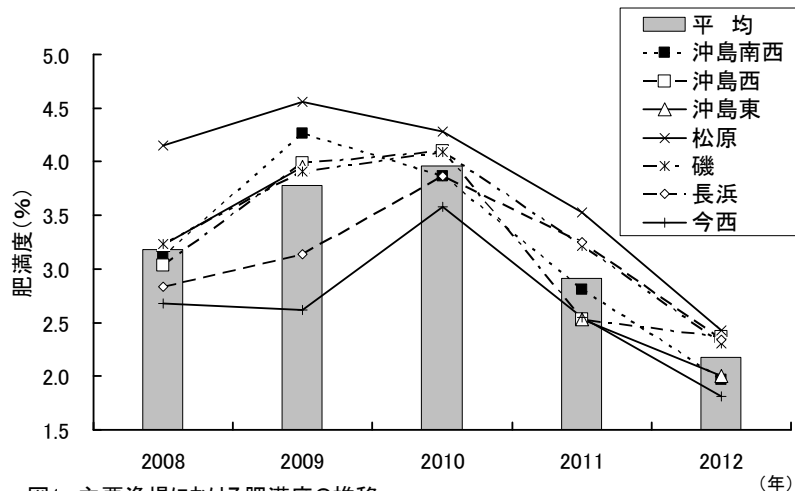


図1 主要漁場における肥満度の推移